

研究課題名	急性胆のう炎における胆汁培養採取の意義の検討
研究期間	倫理委員会承認日 から 2026 年 03 月 31 日 まで
研究の概要	当院にて急性胆のう炎に対して胆嚢摘出術を実施された患者のデータを後方視的に検討し、術中胆汁培養採取の意義について検討します。
研究の背景・目的	急性胆のう炎は緊急手術を必要とする外科疾患であり、胆汁培養の採取が手術中に行われます。その目的は感受性結果を踏まえた適切な抗生剤選択と患者予後の改善ですが、培養結果前に患者さんが退院になる例・抗生剤終了となる例が大半を占めており、胆汁培養採取が真に患者のためになっているのか不明です。胆嚢摘出を行う緊急胆のう炎患者さんへの胆汁培養採取が真に益ある検査なのか検証するため、本研究の企画に至りました。
研究の対象	2015 年 5 月から 2024 年 4 月までの間に急性胆のう炎の診断で初回入院中に胆のう摘出手術を行われた患者データを対象としました。 なお、手術前に経皮的・経内視鏡的胆汁ドレナージを施行された患者さんは対象外としています。
研究に用いる試料・情報の種類	上記患者さんの電子カルテから得られるデータ（年齢、性別、胆のう炎の重症度、術式、開腹移行の有無、出血量、輸血の有無、入院期間、術前血液検査結果、術後合併症の有無、重症度、発生日時、抗生剤の種類、開始時間、投与期間、胆汁培養の採取の有無、血液培養の採取の有無、培養結果と結果判明日時、胆嚢の病理結果、培養結果を踏まえた抗生剤変更率）
研究方法	胆汁培養採取群と採取なし群に分け、統計学的手法（IPTW 法）を用いて背景因子を両群でそろえた上で入院期間・合併症発生率について比較を行います。さらに、培養採取群においては培養結果を踏まえた抗生剤変更率も明らかにします。
研究における医学倫理的配慮	本研究データからは患者さん本人を直接特定できる情報（お名前など）を削除し匿名化しますので患者さんを特定することはできません。 また、この研究成果については、学会や学術雑誌などで発表する場合がありますが、その場合でも、上記のとおり匿名化しておりますので、患者さんのプライバシーは守られます。
研究の利用範囲	学会発表や学術誌に本研究結果を報告いたします。
研究組織	公立西知多総合病院
研究責任者	公立西知多総合病院 外科 医長 柴田淳平
問い合わせ先	〒477-8522 愛知県東海市中ノ池 3 丁目 1 番地の 1 TEL : 0562-33-5500
当院担当者	公立西知多総合病院 外科 柴田 淳平